

各部門の最優秀作品の概要

【新築住宅部門 最優秀賞】

作品名「新雑賀町の長屋/サニーグレイス」

(入賞者：岩澤 拓海 氏，関本 哲也 氏)



(設計コンセプト)

松江駅からほど近い、古くからの町割りが残る地域に建つ木造2階建10戸の長屋形式の賃貸住宅。木造賃貸長屋の新しいあり方をめざした。

周辺は静かな住宅地である一方、狭隘な前面道路にかかる法令上の制限から共同住宅の建設が不可能な土地が多く、戸建て住宅・賃貸アパートによる建替えや、敷地分割された土地、歯抜け状になった土地も散見される。

敷地は、間口が狭く奥行きが長いため、西側に玄関、東側に開口・ベランダを並べる商品化された賃貸住宅では、画一的な生活と周辺との断絶・閉鎖性を生む恐れがあった。

本件は、各住戸が外部空間に開くテラスを持ち、1階が一間、2階が二間分の間口を持つものと、上下階の間口が反転した2タイプの住戸からなる。内部は、1階、2階と高さや広さの異なる空間が連なり、内外の多様な居場所を使い分けることで、住まいと働く場所とを兼ねた使い方や、アトリエや小さなお店をあわせた住まい方も受け止められるのではと考えた。

多くの人が一度は住まうであろう規模の住宅だからこそ、多様な住まい手の生活を受け止め、明るく開かれた場所を介して、町と住まいと住まい手を縫い合わす試みがこの場所での答えの一つとなり、ひいては新たな住まいのあり方を提示できるのではないかと考えた。

(審査委員講評)

二つのタイプから構成される各住戸の間取りと、軽快な構造によって豊かな住空間を実現しています。コロナ禍においてこの住まいに付属されているセミパブリックなテラスは居室との一体的なスペースとして有効に働くとともに、各住戸の個性が溢れ出る事により、従来の木造賃貸長屋とは一線を画す環境を作り出すことが楽しみな意欲的作品です。

【リフォーム住宅部門 最優秀賞】

作品名「土田の民家」

(入賞者：竹田 真志 氏)



(設計コンセプト)

陶芸家と料理家の夫婦，幼い子どもたちの4人家族のための岡山市内の住宅。クライアントは新しい生活の拠点とする岡山中で，茅葺き屋根の古民家を購入し改修して住むことにした。敷地周辺には同じく茅葺き屋根の上に金属板を葺き，現代まで住まれている古民家が数軒点在している。元々は農家の住まいとして作られたこの住宅は，数度の増築や改修によって少し窮屈な印象の空間になっていた。そこで地域の古民家の持つおおらかな雰囲気を取り戻し，民家の在り方を継承した上で，現代的なライフスタイルに合うように大きく間取りを変更することで，古い，新しいという枠組みを超えて，現代における民家の形をこの家族を支える生活の器として蘇らせたいと考えた。

夫婦は仕事上の来客が多く，日々の生活と仕事が続いて暮らしていた。陶芸家である夫は，日中はアトリエで制作を行い，作品を直接見にくる来客の対応がある。妻は人を集め，大勢にご飯を振る舞う機会も多い。そこで制作や来客のスペースである土間・畳間，日中の生活スペースである広間，就寝する寝間の3つのスペースとして再構成した。土間と広間部分は3枚引戸で仕切られているが，その建具を開け放つ50畳ほどの一室空間となる。屋根形状に沿った寄棟形の天井は頂部で4m程あり，非常に大きな空間である。住宅としての機能を超えた，仕事場のようでもあり，地域の集まりの場にもなるような自由で新しい未来の住まいのかたちを考えた。

(審査委員講評)

70年の時が経過した古民家の改修です。平面図だけ見れば土間アトリエの特徴を除いて特別な空間性を感じない計画にも思われますが，一度写真に目をやればその密度と豊かさに驚嘆させられます。大らかさと緻密さ，古さと新しさ，単純さと多様性，など相反する価値が絶妙バランスで共存しています。家族の営みを感じさせてくれる家です。

【学生部門 最優秀賞】

作品名 「「友恵湯」建替え計画～銭湯と住宅の新しいあり方～」

(入賞者：吉田 周和 氏)



(設計コンセプト)

「未来に向け暮らしに寄り添う」と聞いて、未来の暮らしとは具体的にどのようなものを想像するだろうか。私は少し先の日常という未来から後世の生活に至るまで、あらゆる人々の生活に寄り添う必要があると感じた。地球温暖化や南海トラフ地震、首都直下型地震のような災害など、様々な未来の暮らしを脅かす課題がある。

銭湯は衛生設備の発達に伴い、年々減少している。街の小さな銭湯の多くは家族経営だが、跡継ぎや収入の減少、老朽化など様々な問題を抱えている。銭湯と住宅のあり方を再考し、「環境負荷低減・防災・日常生活の豊かさ」を実現すると同時に、小さな銭湯の魅力を新しく見出すことはできないか、と考えた。

提案のポイントは大きく分けて3つある。まず、銭湯に欠かせない湯船は大屋根の下、中間領域に置くことで温熱環境に大きく寄与している。また、湯船の使い方、配置、インナーガーデンはこれまでにない魅力的な空間、銭湯を作り出す。2つ目は、住宅が土間と和室によるワンルーム空間で構成されていることだ。生活や銭湯の休憩に利用される空間での新しいライフスタイルは生活に豊かさをもたらす。

最後に、災害についてだ。銭湯住宅による地域のコミュニティの活性化は防災力をも向上させる。災害時に、人々が助け合う絆を構築するとともに、人々に湯を供給することで人々に温もりを届ける。

(審査委員講評)

一粒で二度おいしい、いや三度おいしいとはこのことか。「お湯を沸かす」だけでみんなが笑顔になれる仕掛けが詰まった提案です。その提案をわかりやすく魅力的に見せる数々のイラストやキャッチコピーも秀逸。昨今、日本各地で銭湯好きの比較的若い世代による銭湯の再生計画が進んでいます。その点でもタイムリーなこの作品、実現してほしい。